◆リレー寄稿
～震災半年を過ぎて

いばらきコープ生活協同組合
理事長　佐藤　洋一氏

全国の生協の皆さんのご支援に深く感謝いたします。いばらきコープでは6月の総代会で「東日本大震災からの復興と支援に関する特別決議」を採択しました。決議では「被災者支援、生産者応援、暮らし方の見直し、生協の輪を広げる」という4つの取り組みを通して復興支援を進めていくことを確認しました。これを受け、募金や災害ボランティアへの協力、県内外の生産者やメーカーへの応援メッセージのお届け、節電など、多くの組合員の皆さんにご参加いただきながら、一つひとつ取り組みを進めてきました。また、不安の声が多い放射能問題については、正しく理解していただくための学習会を各地で進めています。

これからも震災で実感できた「助け合い、支え合い、分かち合い」の気持ちを大切にしながら、地域の皆さんのお役に立てるように努力してまいります。

コープふくしま・放射線に関する講演会開催

9月29日、コープふくしまでは、放射線に関する講演会を行ないました。午前の部は郡山さんかくプラザ（郡山市）、午後の部は橘地域公民館（郡山市）で、それぞれ2時間ずつ開催され、合わせて約300人の組合員の参加がありました。この講演は、「前向きになる一助になれば」と企画されたもので、講師には放射線医学研究所に勤務していた農学博士の白石久二雄氏を迎えました。

参加した組合員へ説明する白石久二雄氏。

白石氏は講演で、放射性セシウムの性質等に関する説明を行ない、参加した組合員は熱心にメモをとっていました。

最後に会場でアンケートを実施したところ、多くの組合員より講演会の感想が寄せられ、「とても参考になりました。小さい子どもがいるので（今日学んだことを）実践して行きたいです」「又新しい知識が増えました。長い闘いになると思いますがふるさと福島で生きていきます」「これを機会に生活のあり方を考え、生協さんを信じて力にしていきたいと感じています」「汚染ばかりに気持ちが傾きめいっていましたが、免疫を高める勉強をして笑い合える生活を心掛けようと思いました」「このような講座を待っていました。コープさんの企画に感謝いたしております」などといった声が挙がっていました。

仙台白菜を復興のシンボルに

丁寧に苗が植えられた。

苗は宮城県農業高校の生徒によって育てられた。

みやぎ生協では、生産者と食品関連業者が連携し地域の復興を目指す「食のみやぎ復興ネットワーク」の活動に取り組んでいます。この一環として、9月11日に名取市の畑に3,000株を超える仙台白菜の苗が植えられました。仙台白菜は、伝統野菜としてその価値が見直されており、比較的塩害に強いことから復興のシンボルとして取り上げることが決まりました。今回植えた苗を育てたのは、宮城県農業高校（名取市）の生徒たちです。生徒たちは避難先である亘理高校で苗を育ててきました。この日は宮城県農業高校に加え、明成学園高校（仙台市）の生徒・教師21人が、地元のＪＡ職員や食品メーカーの社員などと一緒になって、定植（トレーで育てた苗を畑に植える作業）を行ないました。明成学園高校の高橋教諭は、「仙台白菜が生まれた100年前の歴史をひもときながらこれからの100年を積む思いで育てていきたい」と意気込みを語ってくださいました。